

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490900089	事業の開始年月日	平成19年8月1日
		指定年月日	平成19年8月1日
法人名	医療法人社団 裕正会		
事業所名	グループホーム ウェルケアSun		
所在地	( 〒 223 - 0058 ) 神奈川県横浜市港北区新吉田東8-20-33		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和3年12月1日	評価結果 市町村受理日	令和4年3月15日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2021年も新型コロナウィルス感染予防と、その状況下での生活の質をどう保って行くのが課題でした。感染予防は昨年から引き続き、職員は自宅で検温、出勤時の検温とSPO2測定や手洗い嗽の実施。ホームではこまめな換気、消毒を行ってまいりました。面会については11月より、予約制で面会は2名迄でマスクとフェイスシールド着用などの制限付きですが再開しております。再開すると、数多くの予約が入っております。面会時に御利用者だけでなく御家族の嬉しそうな笑顔も見受けられました。外出や外食などはまだ控えている状態ですが、その分、ユニット毎で夏祭りや敬老会を行ったり、外気浴や室内で行えるゲームやホール内を季節に合わせて飾り付けるなどを行い、また食事もランチパーティや器を変えてお弁当風にするなど、ご利用者に気分転換や喜んで頂ける工夫をしております。歌の会は11月より以前の様に1Fと2Fを合同で行い始めました。感染状況が落ち着いてきている状況でもあるので、以前の様に戻せる所は徐々にでも戻せて行ければと思っております。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和4年1月6日	評価機関 評価決定日	令和4年3月1日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><b>【事業所の優れている点】</b></p> <p>◇医療連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法人の協力医療機関が近くにあり、24時間体制で対応してくれる。また看護師が毎日訪問しており、緊急時や夜間でも利用者に安心感を与えている。</li> </ul> <p>◇「大切な人だから」という理念の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は家族のように利用者一人ひとりに寄り添い、ケアを実践している。食が細くなった利用者に食べたいものを尋ねて、うなぎと分かると時々ご飯に乗せ、少しでも食べられるようになると、喜びを共有している。また、馴染みの美容院に通う利用者をホームの車で送迎したり、買物が趣味だった利用者にはネットショッピングで洋服の購入を手伝ったりしている。</li> <li>・職員も大切にしている。職員の要望により起き上がりセンサーや滑りやすいシートを購入してケアの負担を軽減したり、昇給につながる介護福祉士資格取得のために講習会や費用負担をしたりするなど、職員を支援している。</li> </ul> <p><b>【事業所が工夫している点】</b></p> <p>◇コロナ禍での工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で利用者と家族の面会中止の状況が続いたが、面会したいという家族の要望で、事務室の窓越しに電話で会話する方法を実現した。</li> <li>・散歩や買物など外出は制限しているが、音楽療法士による歌の会や室内でできるゲームなどの行事を計画・実行し、利用者の気分転換を図っている。</li> </ul>
--

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム ウェルケアSUN
ユニット名	大地

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
		○	4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
		○	4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
		○	4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時に法人理念の説明をして一人一人を尊重し、明るく家庭的なゆとりのある生活支援をする為に、利用者担当職員を決めて、そこから情報を共有して、一人一人に合う支援が出来るようにしている。	・「大切な人だから…」というホームの理念を玄関に掲示し、職員が常に意識するようにしている。 ・職員は、理念に基づき利用者一人ひとりを尊重し、家族のように思いや意向を大切にケアにあたっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で制限があり地域との交流が持てていない状態である。	・町内会に加入し、町内会会長の了解を得て、回覧板に徘徊利用者のお尋ねをはさんだことがある。 ・コロナ前は、特殊学級の小学生とのふれあいや、中学生のボランティアを受け入れていた。また喫茶アウリンコを地域に開放していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で制限があり地域との交流が持てていない状態である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は、新型コロナウイルス感染予防の為に開催出来ずにいるが、活動状況報告書を書面にて報告している。	・コロナ前は、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族が参加して年6回開催していた。 ・町内会長に「ふれあい動物園」を紹介され、利用者がうさぎや羊に触ることができた。また、認知症のことを尋ねられ説明したことがある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者の担当者に医療券依頼や、介護保険更新後の情報提供等連絡を取っている。 介護相談員の受け入れは、新型コロナウイルス感染予防の為に行えていない。	・港北区生活支援課の担当者とは、生活保護受給者の預金状況を報告したり、車椅子購入に使用するなどのアドバイスをもらったりしている。 ・横浜市のグループホーム協議会に参加し、ZOOMを用いての会議に出席している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	入職時に身体拘束に関する研修を行い、身体拘束ゼロの法人方針を伝えている。毎月法人内のGH管理者が集まり、身体拘束適正化委員会を開催して身体拘束の現状について話し合っている。	・毎月法人内の管理者3名で身体拘束適正化委員会を開催し、議事録を作成している。議事録に「身体拘束対象となる具体的な行為」を明記して職員に回覧し、周知に努めている。 ・ベッドから落ちないようにマットレスを立て掛けるのも身体拘束となることを注意喚起した。	・コロナ禍でもオンラインでの受講を工夫することで、経験豊富な職員も研修を受けることが期待されます。
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待防止に係る一斉点検実施」の依頼があり、毎年自己点検を実施して虐待に関する再認識と振り返りを行っている。また設置法人ウエルケア新吉田での勉強会も行っているが、新型コロナウエルス感染予防の為に参加していない。	・虐待防止に関する研修は、職員の採用時に行っている。管理者と副主任は年に1回受講している。 ・職員は年1回「虐待自己点検シート」を使って自己点検を行い、虐待行為を再認識し、虐待防止に取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護受給者の担当者に医療券依頼や、介護保険更新後の情報提供等連絡を取っている。 介護相談員の受け入れは、新型コロナウエルス感染予防の為に行えていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書にわかりやすく権利義務を明示し、十分に時間を掛けて説明している。質問等には、その都度丁寧にお答えをして、御本人及び御家族の理解と同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族へは毎月生活状況などの報告書を送り利用者様の様子を知ってもらっている。利用者様に状況の変化があった時には報告、相談して御家族の意向等を聞いた上で、ホームの考えも伝えて援助方針を決めたりしている。	・コロナ前は、夏祭りとクリスマス会に合わせて家族会を開催していた。コロナ禍では、家族の訪問時や毎月の報告書の連絡で意見を聞くようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議は実施していないが、個々に話しかけたり、相談をしたりとコミュニケーションを取り、働きやすい職場である様に心掛けている。	・職員は意見を申し送りノートに書いたり、ユニットリーダーに相談したりしている。また管理者は年1回職員との個別面談を行っている。 ・職員の要望で、起き上がりセンサーや滑りやすいシートを購入し、ケアの負担を軽減できている。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者の重度化に伴い規程の人員以上の職員配置を実施し、介護の質の確保に努めている。有給休暇も働き方改革に則り5日以上取得が行えている。夏冬に各3日の季節休暇も提供しリフレッシュ出来るようにしている。	・管理者は年1回「昇給評価チェックシート」を使って、職員とともに努力・成果の評価や今後の目標を確認し、代表者に報告している。 ・健康診断を、夜勤の職員は年2回、その他の職員は年1回受けている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員には、入職時に身体拘束と認知症の研修を行っている。設置法人ウエルケア新吉田での勉強会も行っているが、新型コロナウエルス感染予防の為に参加していない。介護福祉士などの資格取得サポートも実施している。	・新入職員に対して、1か月間法人が研修を行い、ベテラン職員がケアの技術を指導している。 ・法人は、職員の昇給につながる介護福祉士資格の取得を勧めるため、講習会を行ったり費用を負担したり、支援している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	月に1度、法人内のグループホーム管理者が集まり情報交換や意見交換、取り決めなど話し合いサービス向上に努めている。横浜市グループホーム連絡会に所属しているが、新型コロナウエルス感染予防の為に交流が出来ていないが、ZOOMでの交流を図る予定である。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に御本人の生活歴などの情報を収集して、入居後にどのような援助が必要かを確認している。入居後には御本人の様子を見て、コミュニケーションを取る事で援助内容を見直したり信頼関係を構築する様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時に御家族の不安や疑問点などを聞き、可能な限り御本人と御家族の思いに沿った生活を提供出来る様に努めている。御家族には援助方法を提示して御家族の意見も取り入れた介護計画を作成している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には見学をして頂いている。その際にグループホームの説明を行い、ご利用者と御家族の要望に沿っているかを確認している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の御利用者の出来る事を確認して、出来る事は御自身で行ってもらい、職員はあえて手伝い過ぎず待つ事も心掛けている。さりげなく援助する事で出来る喜びや達成感を感じて頂いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族には報告書を通じて毎月の御利用者の様子を知って頂いている。また、電話や報告書で御家族に依頼する事なども伝えている。コロナ禍で面会に制限があるが、面会に来られた際には報告している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウィルス感染予防の為に10月まで面会中止や外出も制限を設けている。11月からは制限はあるが面会を再開している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍での家族の面会を、事務室の窓越しに顔を見て、電話で話ができるよう工夫した。</li> <li>・家族に毎月手紙を書く利用者を支援し、上達と一緒に喜んでいる。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者に合わせた生活を尊重しつつ、集団での生活が快適になる様に職員が間に入り調整している。利用者同士がコミュニケーションが図れる様に席も工夫している。また個人の立場も尊重して無理に全体に合わせる事は行っていない。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了は、殆どがお看取りの為、御家族へのフォローを行っている。また退所された入居者の御家族からお亡くなりになられたとの連絡を頂く事もある。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	御本人様の希望を聞き、その人の希望通りに暮らしていける様にしている。困難な場合は、今迄の生活歴などを考慮して検討している。	・職員は利用者との会話や仕草の中に好き嫌いや興味の有無を読み取り、それを記録して共有している。 ・食が細くなった利用者には食べたいものを尋ねて、時々ウナギをご飯に乗せるようにしたり、服を買うのが好きな利用者には、ネットショッピングを手伝ったりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やその人の情報を職員間で情報共有にて把握できる様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の過ごし方や出来る事などを、観察して記録をおこなう事で現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様一人ひとりに担当を決める事で、御本人様の状態を把握して課題などを関係者と話し合い介護計画を作成している。	・利用者の担当者がアセスメントと日々の様子から状態を把握し、3か月ごとにカンファレンスで課題を話し合い、6か月ごとに計画作成担当者と介護計画を作成している。 ・介護計画作成時に利用者と家族の意見を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録の情報などを職員間で共有して今後のケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人様の状態を把握して、その人により良いサービスを活用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で外部からの支援は厳しいが、地域資源を把握して、御本人様が望まれるような支援をしている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人様、御家族様の意向を大切に、かかりつけ医と連携してケアを行っている。 定期的に医師や看護師の訪問を受け、訪問歯科も定期的実施している。	・法人の協力医療機関の医師が週2回訪問診療を行っている。24時間対応可能で、嘔吐などの緊急時も往診してくれる。 ・看護師は毎日訪問し、処置の必要な利用者に対応している。歯科医師は週1回訪問している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の訪問看護を実施。急な体調不良時など気になる事が発生した場合は、随時電話にて訪問依頼して処置やドクター受診の指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必要な情報提供を行い、適切な医療が受けられるよう努めている。また御家族とも連携を密にして入退院が滞りなく行えるよう努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に施設の方針や対応の限界等を、御本人や御家族に説明している。その後も必要時に話し合い、御家族の意向を確認しながらケアを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居時、利用者・家族に重度化や看取りについての説明をしている。</li> <li>・職員は入職時、ターミナルケアマニュアルにて研修を受けている。</li> <li>・重度化した場合は、医師が家族に説明している。家族の意思を確認して、看取りの計画を作成している。</li> </ul>	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応方法を事前に確認している。有事の際には職員同士連携を取って対応している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練に参加して避難できる方法を身に付けている。年2回の防災訓練を実施している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回の夜間想定も含めた避難訓練を実施している。「避難確保計画(鶴見川氾濫時)」に添っての訓練も行っている。</li> <li>・食料と水を3日分備蓄している。</li> <li>・災害時に10分ほどで駆けつけられる職員が3名いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会と災害時の協力関係について話し合うことが期待されます。</li> <li>・備蓄品リストを作成し賞味期限を管理することが望まれます。</li> </ul>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重して声掛けなど気を付けている。 出来ない事があっても否定せず、受け入れて相手を傷つけない様に対応している。	・職員は入職時、法人よりプライバシー保護の取り組みに関する研修を受けている。管理者は気になる言葉使いなどを職員に注意している。 ・職員は毎日帰宅前にセルフチェック表「今日の私はどっち?」にて利用者への対応を自己評価している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で、何気ない会話の中に御本人の思いや希望等を聞く機会があれば大切にして、自己決定の支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声掛けを行いながら、御本人の意思を大切にして、出来るだけその方のペースに沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の際など洋服えお選んで頂いたり、朝は鏡の前で身だしなみを整えて頂いている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニット内で食事会等を行っている。また、一人一人の嗜好やアレルギー、嚥下状態なども考慮して個人に合った物を提供している。 出来る方には下膳や食器拭きなどをしている。	・カロリーバランスを考えた食事が法人施設から提供される。利用者はパンかごはんかおかゆが選べる。 ・行事食はお寿司や昇華弁当、クリスマスにはシチューを提供している。おやつには、利用者と職員でフルーツパティ作りを楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分を余り飲まれず、水分量が少ない入居者様には声掛けをしたり、好きな飲み物を提供して摂取出来る様に促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自身で口腔ケアをする事が出来ない入居者様には、ブラシやスポンジブラシで介入したり、出来ない所はお手伝いをしたり、見守りながら声掛けをしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自身でトイレに行かれない入居者様へは様子を見ながら声掛けを行い、トイレへ案内している。 また、車椅子を手摺代わりに使用するなど、安全に回転動作や立位が出来る様にしている。	・職員は排泄表をチェックしたり、仕草で察知したりして、さりげなく声をかけてトイレ誘導している。 ・立位がとれない利用者で便が出にくい場合は、職員が2人介助でトイレでの排泄に対応している。 ・夜間ポータブルトイレを使用する利用者が2名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師に相談して排便コントロールを行っている。1日座られている方には足上げ運動や手引きでフロアを一緒に歩いたりして軽い運動をしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	未入浴の日が長くない様にチェックシートを確認している。 入浴剤などを入れて個々に応じた入浴をして頂いている。	・入浴は原則週2回とし、排泄で汚れた際も洗い流している。ゆず湯、菖蒲湯、入浴剤も楽しんでいる。 ・利用者の入浴中、職員は話をしたり、一緒に歌を歌ったりしている。 ・利用者の状況に合わせてシャワー浴にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣や身体状況に応じて室温調整やポジショニングなどを実施して気持ち良く眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が服用している薬について説明を読み理解している。誤薬や落薬が無いように必ず2人で服薬確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	機能訓練も兼ねた洗濯物たたみや食器拭きなどを一緒に出来るよう支援している。毎月1回の季節行事を企画して参加できる取り組みを実施している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナの感染状況をなどを考え、可能になれば出かけられるように支援していきたい。	・コロナ前は、利用者は近くの公園まで散歩に出かけていた。コロナ禍の今は、天気の良い日にホームの駐車場で外気浴やプランターに水やりをしている。 ・気分転換として音楽療法士による歌の会を月3回楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で外出や買い物などは出来ていない。 希望を伺い購入したりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	状況に応じて希望があれば御家族に電話をかけて本人とお話して頂いた。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が気持ち良く過ごせる様に清掃や室温調整をおこない、季節毎の壁面飾りなど工夫している。	・夜間担当の職員がトイレ掃除、日勤の職員が室内やキッチンを掃除している。室内の温度・湿度は職員が利用者に合わせて調整している。 ・七夕、クリスマス、正月には壁飾りを職員と利用者が楽しく作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の様子に応じて居室で休んで頂いたり、テレビ前のソファで一緒にテレビを楽しめるよう声掛けをしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の物や使い慣れたものをお持ち頂いている。転倒のリスクのある方は家具の配置や混乱の無いように工夫している。	・利用者はテレビや自分の作品、家族の写真などを置いている。居室でCDやDVDを楽しむ利用者もいる。 ・ナースコールを必要な利用者に、また起き上がりセンサーや手すりを転倒が心配な利用者、家族と相談して設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の状況に応じて出来る事は声掛けしてやっ頂いて自立を促し、出来ない所をお手伝いするように支援している。 安心安全を心掛けている。		

事業所名	グループホーム ウェルケアSUN
ユニット名	太陽

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
		4, ほとんどない	
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
		4, 全くいない	
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の理解は出来てきており意識している。一人一人を尊重して、その方に合わせて援助をしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為に制限がある日々になっているので交流が出来ていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為に制限がある日々になっているので交流が出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は、新型コロナウイルス感染予防の為に開催出来ずにいるが、活動状況報告書を書面にて報告している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護受給者の担当者に医療券依頼や、介護保険更新後の情報提供等連絡を取っている。 介護相談員の受け入れは、新型コロナウイルス感染予防の為にできていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	知識が乏しい職員にも、しっかりと話をして身体拘束ゼロのケアに取り組んでいる。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	狭い空間でのケアが中心になっている為に、複数の職員がチームケアとして業務を共有する事で虐待が行われない様な環境を整えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会などへの参加の機会が少なく個人的に勉強する事が多い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書にわかりやすく権利義務を明示し、十分に時間を掛けて説明している。質問等には、その都度丁寧にお答えをして、御本人及び御家族の理解と同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、日々の利用者様との会話やコミュニケーションを図る事で理解して、内容によっては御家族とも相談して改善に努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見に耳を傾けて話を聞き、必要に応じて話し合い、その都度意見交換をしながら改善に努めている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者の重度化に伴い規程の人員以上の職員配置を実施し、介護の質の確保に努めている。有給休暇も働き方改革に則り5日以上取得が行えている。夏冬に各3日の季節休暇も提供しリフレッシュ出来るようにしている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員には、入職時に身体拘束と認知症の研修を行っている。設置法人ウエルケア新吉田での勉強会も行っているが、新型コロナウイルス感染予防の為に参加していない。介護福祉士などの取得サポートも実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	月に1度、法人内のグループホーム管理者が集まり情報交換や意見交換、取り決めなど話し合いサービス向上に努めている。横浜市グループホーム連絡会に所属しているが、新型コロナウイルス感染予防の為に交流が出来ていないが、ZOOMでの交流を図る予定である。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今迄の利用者様の生活スタイルに近付ける様に努め、寄り添い傾聴する事で信頼して頂ける様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の不安や心配事を聞き、安心した生活を送れる様に取り組んでいる。また利用者様と御家族の思いに寄り添った援助を共に考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの説明を利用者様と御家族にして、要望に沿っているのかを話し合う事で、より良い生活を送れる様に援助している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	少しでもやりがい、生きがいを見出せるように援助して、家族の様な関係性が出来ているが、言葉遣いには気を付けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月御家族へ報告書を郵送して、ご本人様の生活の様子や気付きをお伝えして関係を築いている。また、面会時などにお話をしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会や外出が制限されている中、工夫をしてより良い関係が途切れない様になっている。お話をする中でも思い出したり、懐かしむ事はある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	今出来る事を大切にして、皆で一緒に出来る事を探し、利用者様同士もコミュニケーションが取りやすいよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係性を断ち切らない取組みを心掛け、退所された後の関係も大切にしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	傾聴して希望に添う様に努めているが、ゆとりが無い時には声を掛けて出来るだけ早く対応する様にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	記録を参照して、他職員に聞いて取りして把握する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや業務記録、引継ぎノートなども活用して情報把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナ禍により、現状では家族との接触は難しいが、介護計画はチームで検証して実施している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ同士で記録だけでなく画像などでも共有して話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍の影響で提供出来るサービスが制限されているが、その中で可能な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流が出来ない状況であるが、ホーム内で安全、安心、穏やかな生活が送れる様に支援している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期往診と日々の観察、バイタル測定、医療連携体制により情報共有なども含み、必要に応じて医療サービスを受けられる体制が出来ている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の異変確認時や事故発生時は速やかに電話連絡を行い、看護師対応・往診に繋げる行動を取っている。業務中に確認した事項においてはカルテに必ず記入することを心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	外部医療機関との連絡は主に管理者が行っており、申し送り等の指示に従い職員も適切に行動している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の生活状況を定期的に話し合い、必要な時期に管理者・看護職員と相談し利用者家族も含めたICの場を設け、今後の方針を説明できる環境作りを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は手順書の作成やフロア会議時に議論することで、利用者が治療・処置を受けられるまで無駄な時間ロスが発生することが無いように対応できるよう努力している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署の協力をいただき、訓練を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃利用者と接しているうえで、嫌悪感を示す単語やNGな会話内容については申し送り等で周知し、利用者自身が不快とならないよう連携して対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けを行う際は表情やしぐさも読み取るようにし、要望に沿えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介助の前に説明を行い、不快とならないようにしている。利用者それぞれの生活リズム・嗜好や物事の順序を理解し、それを崩さないようにする。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の衣服や髪型のセット等、気を使いながら介助する。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	新型コロナ感染対策により、現在は食事の片づけ等は一緒にできていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定や食事水分摂取の声掛けを行っている。また医師や栄養士の意見をもとに必要ならば経腸栄養剤で栄養バランスを確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシ、口腔スポンジ、口腔清拭シートなどを使用して毎日実施。義歯も洗浄消毒を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排尿、立位や服の着脱が可能な場合は居室にポータブルトイレを設置。オムツが必要な方も夜間のみなど一人一人のパタンに応じて最小限にしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の適正摂取、オリゴ糖、乳製品を提供して予防に取り組んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	拒否されてしまう利用者様には時間をおいて声掛けをして浴室に案内している。足腰に痛みを訴える利用者様の為に滑り止めマット、浴槽手摺などを用意して御自身で入浴出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡する方、しない方の体調をみて必要に応じて対応している。入床時間も利用者様に合わせて対応して、職員間で情報を共有している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者さまの状況を医師に伝えて連携している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	可能な限り外気浴や散歩を行い、外に出る機会を設けている。また、利用者様に合わせて楽しんで頂ける事を見つけて行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、制限があるが公園への散歩や玄関先やベランダへの外気浴を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、新型コロナウイルス感染予防の為に、一緒に買い物には行けないが、利用者様の希望を伺い購入している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お手紙を書ける利用者様には支援を行い、請求書と一緒に送って頂いている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアを季節に合わせて飾り付けするなど、季節感を感じて頂ける様にしている。また、テーブルの位置など不便にならない様にレイアウトして、可能な限り居心地よく過ごせる様に配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人で過ごされたい方には1人で過ごされる事が出来る様にしており、フロアの席は可能な限り相性の良い利用者様同士になる様に配慮している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の意向を伝えて望まれている物を御家族に相談して持参して頂いたり、スタッフが購入して利用者様が過ごしやすい様に心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立している方、手伝いが必要な方など個々のADLに合わせて出来る事を行って頂いている。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名

グループホーム  
ウエルケアSun

作成日

令和 4 年 3 月 2 日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	コロナ禍でもオンラインでの受講を工夫することで、経験豊富な職員も研修を受ける事が期待されます。	オンラインでの研修の参加がおこなえる様に環境を整備して、スタッフが研修に参加しやすい状態に整える。 多くの職員に研修に参加していただき、自己研鑽していく。	各フロアのパソコンにZOOMをインストールして、オンラインでの研修参加がおこなえる様にする。 また、管理者やユニットリーダーから、各スタッフに受けてもらいたい研修の提案をしていく。	1年
2	35	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会と災害時の協力関係について話し合う事が期待されます。</li> <li>・備蓄品リストを作成し賞味期限を管理することが望まれます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方と災害時に協力し合える関係を築く。</li> <li>・備蓄品の在庫を把握する事ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍が収束したら、地域の方をホームの行事に招待したり、運営推進会議などで関係を深める。</li> <li>・備蓄リストを作成して、必要物品の整備をする。</li> </ul>	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。